

アミロイド除去療法は、海馬に効いている！

文 田口明彦

text by Akihiko Taguchi

前は：アルツハイマー病の治療、すなわち新規記憶の能力の維持・向上には、神経細胞死の抑制ではなく、海馬新生ニューロン産生の活性化が重要であることをお話ししました。

最近、脳に蓄積するアミロイドβと呼ばれる有害物質を除去できる治療薬が開発され、大きな話題になっています。やれやれこれで認知症にならずに済む、と考えるのはまだまだ早計です！

この薬はアルツハイマー病を治療する薬ではなく、アルツハイマー病の進行を少し遅らせる作用がある疾患修飾薬です。この薬を使ってもアルツハイマー病が治るわけではなく、アルツハイマー病にならないわけでもなく、単に物忘れが悪化するスピードを約27%遅らせる効果しかありませんので、引き続き認知症にならないような生活を続けることが重要です。

ただ、この薬の臨床試験データからも、アルツハイマー病における海馬新生ニューロンの重要性に関するデータ

が得られています。あまり知られていませんが、一般にアミロイドβの除去作用がある疾患修飾薬は脳の萎縮を加速します。日本で最初に認可されたアミロイドβ除去薬（レカネマブ）も脳

全体の萎縮スピードを約30%加速させるとオーストラリアの研究者が警告しています。アミロイドβ除去薬で脳が萎縮することが、どの程度よくない副作用なのかは議論中ですが、注目すべきデータは、アミロイドβ除去薬（レカネマブ）により、海馬の萎縮スピードが減少している点です。アミロイドβには、海馬新生ニューロンの産生を

阻害する作用があることが知られています。そこで私たちは、アミロイドβの除去により、海馬新生ニューロンの産生速度の低下が緩やかになり、それが物忘れの悪化スピードの減速につながっているのだと考えています。

アミロイドβ除去薬の臨床的な限界や問題点も明らかになっていますが、そのようなデータからも海馬新生

ニューロンの重要性がますますクロウズアップされています。それでは、どのようにすれば海馬新生ニューロンが活性化できるのでしょうか？

（続きは次回に…）

Profile

神戸医療産業都市推進機構
先端医療研究センター部長
米コロンビア大学、国立循環器病研究センターを経て現職。間葉系幹細胞を使った再生医療による体内での再生促進・炎症制御の作用メカニズムを世界に先駆けて解明。次世代細胞治療を、日本から世界に普及させていくための研究開発を行っている。



認知症を再生医療で治すプロジェクトが始まっています